

初めてのクロスカントリースキー

今年は暖冬で雪が少なく、カントリースキーができないのではと心配していましたが、年中の水野ねねさんのお父さんのご協力で、グラウンドに立派なコースが出来上がりました。そこで早速、1月24日、年中さんが今年初めてのクロスカントリースキーを行いました。年中さんは、今年初めてのスキーでもあり、靴をはいて立つのにも苦戦している様子でしたが、すぐに歩き出し、多い子で3周くらい滑ることができました。今年度も、クロスカントリーは、年中さんと年長さんが、3回の予定で行います。



鬼はそと、福はうち(豆まき)

さて、2月3日(金)の節分。今年も帯広の森幼稚園に、「赤鬼と青鬼」が金棒をもってやってきました。それを年長さんが協力して取り上げ、「泣き虫鬼」「おこりんぼ鬼」「やだやだ鬼」「ちらかし鬼」「なまけ鬼」「好き嫌い鬼」「いじわる鬼」…子どもたち(大人も)の心の中にいるかもしれない鬼を全員で退治しました。



3過(過保護・過干渉・過期待)は子どもをダメにする

子どもの言動を見てみると、じれっなくなったりハラハラしたりすることがたくさんあります。母親の言葉で一番多いのは「早くしなさい」であるとも言われています。しかし、子どもは自分の手でやってみて、成功したり失敗したりする中から育つものです。『聞いたことは忘れ、見たことは覚え、やったことは身につく』と言われる所以です。危険な行動以外はできるだけ我慢して、口出しすることは控えたいものです。

子どもが欲しがるものは、何でも買ってあげることが、子どもを大事にすることだと考えてはいませんか。今必要かどうかをきちんと話し合い、必要でないものは我慢させるという「我慢のしつけ」は、子どもの成長の良薬です。また、保護者の考え方によって友達を選ぶということはありませんか。子どもは時に笑わされたり、泣かされたりする中から喜びや強さや、人との付き合い方が身に着いたりするものです。最後に、「〇〇ができたなら〇〇を買ってあげる」とか、面倒を見てあげるとか、度が過ぎるのも考えもので、子どもは「自分から進んで」という意欲を失ってしまいます。「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、ほめてやらねば、人は動かじ」という昔の言葉を、もう一度味わってみたいものです。

お願い

帯広市内の小中学校では、インフルエンザによる学級閉鎖が増えてきているようで、最近、インフルエンザ予防のために空間除菌(首に下げている除菌グッズ)をしている子が見受けられます。しかし、これらは、子ども自身による自己管理が十分でないことや遊び(運動)の中で、引っ張られるなどして危ないことから、従来より「園内では着用しない」とさせていただいています。ご理解ください。

→3月4日、市の交通指導員さんがいらして「交通安全教室(こぐまクラブ)」を行いました。改めて、雪道での注意をビデオでわかりやすく、お話していただきました。

